

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	天竜川総合学習館管理運営事業	会計	一般会計	事業No.	538	施策順No.	54-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	8-3-1-12-1		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	建設管理課		
施策	54 自然とのふれあいと環境学習の推進			事業期間	開始	14	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 幼児、市内小中学生及び一般市民(市民) 2 講座参加者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	人口(人)		107259	106630	105691	105036	105036	
	講座参加者(人)		2824	3730	4119	3229	4200	
意図	自然・環境・歴史・文化等の総合学習、体験学習の場、防災拠点として幼児から小中学生、成人までの皆さんに施設を利用してもらう。生涯学習、環境学習、河川防災等の講座を開催し、自然・環境・防災等に対する意識の高揚を図る。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
来館者数(講座参加者、総合学習利用者、施設利用および市民以外の来館者を含む)(人)		22697	26513	25874	20000	26611	25000	A
講座開催数(回)		121	121	140	120	106	140	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	講座開催数は減りましたが、1講座あたりの参加者数は減っておらず会場の規模からするとほぼ限界である。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	天竜川治水対策事業の整備にあわせて、河川防災拠点施設とともに、天竜川などの河川環境や自然環境学習の場として建設されている天竜川総合学習館の施設管理及び学習講座の企画運営を行う事業である。 天竜川の災害や自然環境の展示や企画展示をおこない一般観覧者に対応すると共に、週1~2回の講座開催による環境等の学習の推進や、小中学校などの総合学習の場としても積極的に活用していただき、河川やこの地域の自然・環境・歴史・文化などを題材にした生涯学習の推進を図る事業である。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 かわらんべ講座の開催 〔講座内容〕 (1) 小中学生・一般を対象にした、自然環境学習講座の開催 (2) 幼児向け講座の開設(親子で自然に親しむ講座の開催) (3) 成人市民を対象にした、自然環境学習講座の開催。 (4) 河に親しむ講座の開催 2 総合学習(学校)への対応 3 来館者への対応(講座参加者、総合学習利用者、施設利用及び市民以外の来館者を含む)	1 講座開催数 2 来園、来校回数 3 来館者数	1 106回 2 84回 3 26,611人
23年度実施計画	1 かわらんべ講座の開催 〔講座内容〕 (1) 小中学生・一般を対象にした、自然環境学習講座の開催 (2) 幼児向け講座の開設(親子で自然に親しむ講座の開催) (3) 成人市民を対象にした、自然環境学習講座の開催 (4) 河に親しむ講座の開催 2 総合学習(学校等)への対応 3 来館者への対応(講座参加者、総合学習利用者、施設利用及び市民以外の来館者を含む)	1 講座開催数 2 来園、来校回数 3 来館者数	1 140回 2 60回 3 25,000人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		6,693	6,673	8,559		
計(A)		6,693	6,673	8,559		
正規職員所要時間			300			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			1,073			
トータルコスト A+B			7,746			

4 事業に対する市民や議会の意見

かわらんべ祭りのアンケートからも「川の自然を知ることができた」「自然の大切さを感じた」等、かわらんべに対する期待度は大きい。実質の入館者数も記載された。学校、PTA、単位自治会、各種団体等を巻き込んだ、家族ぐるみで楽しめる企画を検討し、更に展開されたい。全市民的に利用を促進するために、施設への交通の利便を高める取り組みをされたい。(施設への学校の市マイクロバス利用は、別枠とした。)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	自然とのふれあいや、環境学習から環境意識が向上する	施策の成果指標又はムトス指標	環境学習会に参加したことのある市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	講座の開催により、参加者が自然とふれあう機会を与えている。		
	後期に向けた課題	講座の新規参加者の獲得。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	講座の参加者は増えてきたが、会場規模等の事情により、ほぼ限界値まできている。		
	後期に向けた課題	開催講座の精査をすること。新規参加者を獲得する施策、固定参加者が、より深く環境学習に関われるような施策を提案すること。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	消耗品費を減らすなど、コスト削減に努めてきた。		
	後期に向けた課題	講座の開催数を減らすことなく、コストの削減を考えていかなければならない。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	講座参加は基本的には無料。		
	後期に向けた課題	飯田市、天竜川環境整備公社、天竜川上流河川事務所の3者のそれぞれに負担が増えないようにする。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①市民が興味を持って講座参加、来館する。 ②市民に興味を持ってもらえるような講座設定について、公社と協力して精査する。		
	後期に向けた課題	平成22年度、国の事業仕訳により、かわらんべの運営について国で議論となり、国からの委託金が23年度から減額されることとなった。しかし飯田市では、環境学習の重要性から、減額分を市単費で補てんし、従来通りの環境学習が継続できることとした。今後の国の動向により、その負担金を検討していかなくてはならない。		
全体を通じて	4年間の振り返り	講座参加者が増えてきており、一部市民の意識変化がみられる。		
	後期に向けた課題	新規の講座参加者の獲得、学習館の管理運営のスマート化。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------